

## 「スマートフォン」と「スマホ」

パソコンに準じる機能をもつ携帯電話端末「smartphone」を手にする人が多くなった。この語は「賢い(smart) 電話(phone)」という意味の英語である。「～phone」をカタカナで書く場合、どのように書けばいいだろうか。「～フォン」「～ホン」「～フォーン」「～ホーン」などがありそうだ。NHKや通信、新聞各社は国の「外来語の表記」(内閣告示)を参考に外来語の表記を決めている。NHKでは「phone」関連の語を「テレホン」「サクソフォン」など「ホ」と「フォ」で書き表しており、外来音の〔fo〕の表記を、「ホン」の形で定着している語とまだ定着していない語でわけている。「smartphone」は、「テレホン」から考えると「スマートホン」になりそうだが、語自体は新語の英語であり「ホ」の慣用が定着しているとは言えず、「フォン」になる。では略語はどうか。現在では、総務省はじめ携帯電話各社も「スマホ」を使っている。NHKの放送でも同様である。しかし、「スマホ」ではなく「スマフォ」なのではないか? という疑問の声もある。

外来語の略語は多く、略し方にもいろいろな方法がある。「スマホ」は、「パソコン」「ワープロ」などのように語の一部を捨て略されている。語の途中に長音や促音などの特殊音が入ると、それを省いた形で略さ

れることもある。例えば「パソコン」は「パーソナルコンピューター」であり「パーコン」でもよさそうだが、長音は省略し、その後ろにくる「ソ」を捨てた「パソコン」の形で定着した。ただ、「ワープロ」は「ワドプロ」とはならないなど、特殊音を略さない語もある。「スマホ」のように元の語にない音を使う略語は珍しい。「スマートフォン」を素直に略せば「スマフォ」か「スマフォン」になる。現に、ある携帯電話会社のテレビコマーシャルで「スマフォン」という語を耳にしたことがある。しかしこれは定着しなかった。「フォ」の発音は日本人にもできるが、伝統的には「ホ」の方が出やすい。特に「スマフォ」「スマフォン」のように語末に「フォ」や「フォン」が使われると「ホ」との区別が付きにくい。「ホ」はどこからきたのだろう。和製英語的に「スマート」+「テレホン」と考えられたのか。であれば「スマホン」もありそうだが、この表記もあまり目にしない。「ホン」は「イヤホン」などで使い古されている。スマート(カッコいい)で新しい通信媒体である「smartphone」に古い感じのある「ホン」が合わないという感覚があるのかもしれない。こうした感覚と「スマホ」の発音のしやすさ、聞きやすさで、この略語が生まれたのではないだろうか。

山下洋子(やましたようこ)